

岩手県立西和賀高等学校の令和7年度生徒募集定員増を求める意見書

岩手県立西和賀高等学校（以下「西和賀高校」という。）は、昭和47年4月の開校以来、西和賀町唯一の高等学校として、地域にとってなくてはならない重要な役割を果たしてきております。

近年人口減少と少子化が進むなかでも、教職員のたゆみない努力により、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな習熟度別の指導体制が確立され、加えて西和賀町の魅力化支援の取組など関係者の幾多の努力もあり、大学進学実績等で着実な成果を収めております。

こうしたことが町内外の中学生やその保護者から評価を得るところとなり、令和6年度一般入試では39人の募集に対し48人から応募があり、志願倍率で地域の小規模校としては異例の1.23倍という数字になったことは、町民共々喜んでいるところであります。

しかし一方で、先の県議会において、県教育長の「いわて留学を通じて定員を超える状況が複数年続けば学級増を考える必要がある」との発言は、西和賀高校においては少なくとも令和7年度も現行の40人定員で生徒募集を行うというメッセージであり、西和賀高校を志望校の一つとして考えていた生徒や保護者が、同校を進路の選択から外す動機になるのではないかと懸念します。

西和賀高校の定員増は、町民に精神面で希望や元気を与えるばかりでなく、当町創生の礎となり関係人口の拡大や地域経済の好循環など、町の活性化にとって大きなインパクトになるものと確信をしております。学級（定員）増を果たすためには、西和賀高校に対する関心、注目が高まっている現下のタイミングが絶好のチャンスです。

またこれを実現することは、当町と同じように県立高校を持ち少子高齢化や過疎に悩む市町村にとって活性化のきっかけとなり、やがては岩手県の地方創生の一助となります。

以上の理由から、西和賀高校の2学級（定員80人）増については、「複数年続く」のを待つのではなく、令和7年度入試から直ちに実施していただくことを強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出いたします。

令和6年9月13日

岩手県西和賀町議会

《提出先》

岩手県知事

岩手県教育委員会教育長